

# 北設楽郡地域公共交通計画 概要

## これまでの取り組みの成果

- 住民の通院・通学・買い物などの移動手段を支えるために、平成21年3月に「北設楽郡公共交通活性化協議会」（以下協議会という。）を設置し、3町村が共同で北設楽郡総合交通システム「おでかけ北設」を構築し、取り組みを進めてきた。
- ・ 高校生の自宅通学率の上昇、公共交通空白域の解消などの成果を上げてきたが、直近の第2次計画の評価指標はすべて悪化傾向にある。
  - ・ ただし、北設楽郡地域においては評価指標の良否にかかわらず、住民の生活基盤としての公共交通の維持は必要である。

## 第2次計画における評価指標

評価指標	実績			
	R1	R2	R3	R4
高校生自宅通学率	69.3%	66.9%	60.4%	61.3%
免許返納件数	43件	72件	51件	40件
住民1人あたりの公共交通利用回数	9.7回	7.0回	7.9回	6.5回
1人あたりの輸送コスト（全体平均）	1,413円	1,831円	1,715円	1,889円

## 北設楽郡公共交通の課題

計画で取り組むべき施策を検討するために、高校生、高齢者、交通事業者、町村担当者に対する調査を実施した

### <田口高校生>

- ・ 田口バス停の待合時間環境改善(Wi-Fiやエアコン、机と椅子の整備)
- ### <郡外高校通学者保護者>
- ・ 郡外への通学に対しての金銭的な支援(1ヶ月の通学費は、7割以上1万円以上、2万円以上との解答も4割弱)
  - ・ 部活などの際には送迎をせざる得ないこと、JR飯田線が大雨などで不通になりやすいことに対する自由意見多数

### <高齢者(民生委員)>

- ・ 自家用車が利用できない場合、家族の送迎や訪問、生協や移動販売の利用などによって生活を成り立たせている
- ・ 身体的に問題を抱える場合には、公共交通の利用は困難。移送サービスやタクシーによる支援が必要
- ・ 定時定路線型のサービスでは対応できない高齢者が多数存在し、予約バスの改善、個別移送サービスやタクシーによる移動環境が必要

### <交通事業者・町村担当者>

- ・ 「運転手の確保」が共通の課題
- ・ 田口新城線の利用が減少しており、地域間幹線系統として維持することが困難

## 本計画の目標

### 基本方針

「この地に暮らしたい」想いを支えるおでかけ環境を創り・守り・育てる

### 目標①

高校の卒業まで安心して通学できる

### 目標②

高齢者が安心して暮らし続けられる

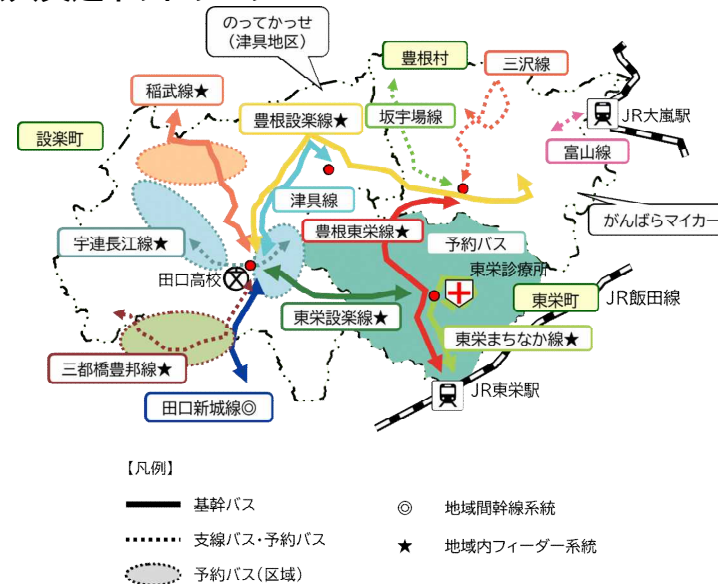
### 目標③

郡外からの来訪者や新たな利用者の確保

### 目標④

おでかけ環境を持続可能とするための体制構築

## 公共交通ネットワーク



計画期間 2024年4月～2029年3月(5年間)

## 本計画で取り組む主な事業

### I 移動環境の確保

- I-1 基幹バスの運行
- I-2 支線バス・予約バスの運行
- I-3 タクシーの運行
- I-4 バスサービスの評価と見直し

### II 学生の通学に必要な移動を支えるための施策

- II-1 小中学生通学手段の提供
- II-2 高校への通学手段の提供
- II-3 新高校一年生に向けた公共交通利用の促進

### III 高齢者の生活に必要な移動手段を支えるための施策

- III-1 高齢者の外出手段確保の取り組み
- III-2 高齢者の交通事故防止と公共交通利用増に向けての取り組み
- III-3 車両購入時に高齢者が利用しやすい車両の導入

### IV 北設楽郡外との交流を促すための施策

- IV-1 田口新城線の活性化
- IV-2 JR飯田線・高速バスと連携した利用促進
- IV-3 公共交通を活用した利用プラン

### V 公共交通でお出かけが愉しくなる取組

- V-1 公共交通に親しみをってもらう取組み
- V-2 バス停の魅力向上
- V-3 沿線施設と連携したバス利用特典の実施

### VI バス運行に係る情報化の推進

- VI-1 GTFSデータを活用した情報化推進
- VI-2 おでかけ北設HPの見直し

### VII おでかけ北設の持続性を高める取組み

- VII-1 運転手の確保に向けた取組みの実施
- VII-2 将来に向けた持続可能な運営体制確立

## 計画の評価指標と目標

目標	評価指標	目標値 (R5実績値)
目標①：高校の卒業まで安心して通学できる	高校生自宅通学率	現状以上 (60.5%)
目標②：高齢者が安心して暮らし続けられる	高齢者に公共交通を利用してもらうための取り組みの実施件数	年3件以上
目標③：郡外からの来訪者や新たな利用者の確保	住民一人あたりの公共交通利用回数	現状以上 (12.2回)
	利用者一人あたりの公的負担額	現状以下 (1,860円)
	収支率	現状以上 (7.9%)
	田口新城線の定期外利用者数	現状以上 (24,916人)
目標④：おでかけ環境を持続可能とするための体制構築	新体制の構築	構築完了

## 目玉施策

### IV-1 田口新城線の活性化

豊鉄バス・新城市と共同で地域公共交通利便増進実施事業に取り組み、田口新城線の利便性向上・活性化を行います

### VII-2 将来に向けた持続可能な運営体制確立

運転手不足を解消し、郡内のバス、タクシーを一体的に運営するための体制を構築するための協議を進めます